

歯科衛生士が顎関節症治療を知るための本邦初の書籍！



歯科衛生士のための顎関節症ガイドブック

島田 淳 編著

AB判/104頁

定価 5,280 円 (本体 4,800 円 + 税 10%)

医歯薬出版 (2021 年 9 月)

東京都健康長寿医療センター研究所
評・小原由紀 (歯科衛生士)



患者さんとのラポール (信頼関係) を築くには、患者さんに対して「痛みや不安を抱えた 1 人の人間として尊重し、向き合うこと」が基本です。患者さんの痛みや不安を受け止め、信頼される関係を築くことが、良い治療効果をもたらします。

編著者である島田 淳先生が本書で記されたこの一節に、顎関節症による不安や困りごとを抱える患者さんに、歯科衛生士としてどのようにかわるのかの本質が表現されていると感じました。

顎関節症は生活習慣、習癖、ストレスが関係する多因子疾患であるため、医療面接をとおして、患者さんの心理的側面や生活背景を深く知る必要があります。また、本書のなかでは、歯

科医師が行うプロフェッショナルケアが奏功するためには、患者さん自身が疾患や病態、管理方法を知る患者教育とセルフケアが合わせて行われるべきあり、歯科医師・歯科衛生士によるチームプレーでの関与が必須であると述べられ、その具体例が示されています。

顎関節症を抱える患者さんの生活上の困りごとや思いを傾聴し、個々のニーズに即した患者指導・支援を行ううえでは、歯科衛生士自身が顎関節症を正しく理解していなくてはなりません。本書は、咀嚼筋と顎関節の解剖、顎関節症の病態、診断方法といった基礎知識に加えて、歯科医師が行う治療や運動療法、生活習慣の改善のための対応例などがくわしく解説されています。さらには、患者さん本人の訴えがなくても、潜在的な顎関節症のリスクを抱える患者さんの観察ポイントも記載されているのは、臨床における予防的アプローチにおいてたいへん意義深いと感じました。まだ顎関節症にかかわったことがない歯科衛生士にとっても、正しい知識に裏づけされた患者さんへの対応に、たいへん役立つと思います。

また、実際に顎関節症の臨床にかかわっている 3 名の歯科衛生士の方が執筆され、医療面接やセルフケア指導におけるコミュニケーションのヒント、歯科医師との連携の具体例が歯科衛生士の視点から解説されているのも特徴的です。

顎関節症は再発しやすく、病状から回復し長期に健康な状態を維持するためにはメンテナンスによる長期的なかかわりが必須であるとされています。また、患者さんの生活背景や性格を踏まえて、口から始まる健康生活を支援することは、齲蝕や歯周病の予防管理で歯科衛生士が実践してきたこととも共通点が多いと思います。顎関節症に限らず、歯科的な問題に不安や困りごとを抱える患者さんに対応する際に、必読の一冊です。